

神戸市教員育成指標<教諭等> ~学び続ける神戸の教職員~ (R5.4改定)

求める人物像	・豊かな人間性にあふれ、 子供に寄り添うことができる人	目指す教員像	子供への愛情と思いやりにあふれた教員	人権を尊重し、子供への愛情と思いやりをもち、常に「子供の笑顔と成長」につながる選択ができる教員
	・自律心を備え、多様性を尊重し、 協調・協働できる人		視野が広く対応力に優れた教員	幅広い知識と教養を備え、多様性を尊重し、他者と協調・協働しながら積極的に行動できる教員
	・自らの資質・能力向上のため、 学び続けることができる人		教育への意欲にあふれた教員	時代の変化や多様化する教育ニーズに対応し、学び続けることのできる教員
			実践的指導力を有する教員	経験を通じて培われた実践的指導力により、子供の生きる力を育むことのできる教員
			自律心と克己心を備えた教員	教育者としての責任と使命感をもち、高い倫理観と規範意識に基づいて行動できる教員

指標項目	ステージ	神戸市が求める 着任時の姿	第1ステージ 基礎形成期(1~3年目)	第2ステージ 基礎充実期(4~8年目)	第3ステージ 資質向上期(9~16年目)	第4ステージ 資質発展・円熟期(17年目~)
① 学習指導	学力向上	学力向上の取組の必要性を理解している。	子供の実態を把握し、学力の定着・向上に努める。	学習指導のポイントを把握し、学力の定着・向上に取り組む。	学校全体の課題を分析し、学力の定着・向上を組織的に推進する。	学力の定着・向上を組織的に推進するための指導や助言を行う。
	授業計画・実践	学習指導要領に沿った指導の必要性を理解している。	子供の実態や学習指導要領を踏まえ、計画的な授業推進に努める。	子供の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、主体的・対話的に学ぶ授業づくりに取り組む。	子供の実態を踏まえて、創意工夫した授業を組織的に推進する。	専門知識や経験を生かした授業を展開するとともに、指導や助言を行う。
	ICT活用	ICT活用の重要性を理解し、活用技能の基礎を身に付けている。	学習集団及び個に応じたICT活用に努める。	学習課題や指導内容、学習場面に適したICT活用に取り組む。	ICT活用による授業改善を組織的に推進する。	ICT活用による授業改善を組織的に推進するための指導や助言を行う。
	授業評価・改善	授業評価や授業改善の重要性を理解している。	単元計画やねらいに沿って授業をふり返り、改善に努める。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業評価・改善に取り組む。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業評価・改善を組織的に推進する。	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業評価・改善のための指導や助言を行う。
	※1 学習評価	学習評価の方法について理解している。	評価規準に則って、適切な評価材料をもとにした学習評価に努める。	評価方法の工夫・改善に取り組む。	評価方法の工夫・改善に取り組むなど、学習評価を組織的に推進する。	学習評価を組織的に推進するための、指導や助言を行う。
② 児童生徒理解	児童生徒理解	子供に寄り添う感性をもっている。	子供と向き合い、共感的・受容的な理解に努める。	子供が置かれた環境や状況等を的確にとらえて対応する。	指導方針等の共通理解に基づき、組織的に対応する。	組織的な対応を図るための指導や助言を行う。
	※2 学級経営	学級経営の重要性を理解している。	児童生徒理解に基づいた学級経営・集団づくりに努める。	学校教育目標に基づいた学級経営に取り組む。	他の教職員と連携を図りながら、学級・学年経営を推進する。	より良い学級・学年経営を行うための指導や助言を行う。
	生徒指導	生徒指導の基本的な考え方を理解している。	いじめの未然防止、不登校対策など、組織的な生徒指導に努める。	広く情報を共有し、組織的な生徒指導に取り組む。	地域や関係機関とも連携を図り、組織的な生徒指導を推進する。	中・長期的な展望をもち、指導や助言を行う。
③ 特別支援教育	インクルーシブ教育システム	インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特別支援教育の基本的な考え方を理解している。	障害の状態や特性及び心身の発達段階等、個に応じた指導・支援に努める。	通級指導等教員と協働し、ユニバーサルデザインや合理的配慮を踏まえた学級経営・授業づくりに取り組む。	すべての子供に対して適切な教育が提供できるよう、学級・学年経営を推進する。	学校全体のインクルーシブ教育システムの構築に向けて、指導や助言を行う。
	個に応じた指導・支援	個に応じた指導・支援の重要性を理解している。	「支援検討シート」等を活用しながら子供の実態を把握し、個に応じた指導・支援に努める。	「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」をRPDCAサイクルに則って活用し、個に応じた指導・支援に取り組む。	個に応じた指導・支援を組織的に進め、合理的配慮・キャリア教育を進め、指導や助言を行う。	
④ 学校運営への参画	学校教育目標	組織の一員として協働する必要性を理解している。	学校教育目標を理解し、実践に努める。	学校評価やカリキュラム・マネジメントを活用して、学校教育目標の達成に取り組む。	学校教育目標の達成に向けて、組織的な取組を推進する。	学校教育目標の作成に向けて、リーダーシップを発揮し、提言・提案を行う。
	チーム学校		組織の一員として果たすべき役割を自覚し、報告・連絡・相談を確実に実行する。	多様なスタッフと連携を図ることの必要性を理解し、情報共有の場を積極的に設ける。	情報共有の場を積極的に設けて、チーム学校の取組を推進する。	専門能力スタッフなどと協働性を高め、一体としてのチーム学校を推進する。
	家庭・地域との連携	家庭・地域との連携の重要性を理解している。	家庭との信頼関係の構築に努める。	家庭・地域との信頼関係を築き、連携を図る。	家庭・地域と連携を図り、課題解決に努める。	学校・家庭・地域をつなぎ、開かれた学校づくりの核となる。
	学校安全・危機管理	命の大切さ、安全・安心な学校づくりの重要性を理解している。	学校安全に留意し、事故やトラブルの未然防止に努める。	事故やトラブルの未然防止を図るとともに、早期発見・早期対応に取り組む。	未然防止や早期発見・早期対応ができる体制づくりを組織的に推進する。	組織運営の核となり、学校安全・危機管理に努める。
⑤ 人材育成・自己研鑽	コンプライアンス	社会人として守るべきルールやマナーを身に付けており、法令遵守の必要性を理解している。	神戸市職員コンプライアンス共有理念を理解し、実践に努める。	高い倫理観と規範意識を身につけ、常に公正・公平に職務を執行する。	高い倫理観と規範意識に基づき、神戸市職員コンプライアンス共有理念の実現に向け、校内研修やOJTを推進する。	
	対人調整	協調・協働の重要性を理解したうえでコミュニケーションを図り、対人関係を築くことができる。	他者の意見を真摯に受け止め、自分の意見を適切に説明できるとともに、必要に応じて支援を求め、良好な対人関係を築くことができる。	互いの意見や思いを尊重し、信頼し合える関係・環境づくりに取り組む。	多様な意見や考え方をつなぎ、職場全体の対人関係の調整に努める。	
	校内研修・OJT	教員は絶えず研究や修養に励まなければならないことを理解している。	研修や研究会に積極的に参加して、指導力の向上に努める。	メンター、メンティの双方の立場から校内研修やOJTに積極的に取り組む。	メンターとして若手教員の人材育成や学年・校務分掌間の連携を組織的に推進する。	校内研修やOJTの核となり、資質向上に努める。
	実践研究・自己研鑽			自らのキャリアプランをもち、専門的知識や技能を高める。	研修や研究会の企画運営に携わるなど、組織としての取組を推進する。	さらなる自己研鑽に努めるとともに、専門知識や技能を生かした指導や助言を行う。
⑥ 神戸の特色ある教育	防災教育		・防災マニュアルに基づき、子供に自らの命を守るために必要な知識と技術を身に付けさせる取組に努める。 ・阪神・淡路大震災などの災害の記憶や教訓を継承し、防災教育に生かす。		・地域の災害特性など自然災害への理解を深め、学校の核となって防災・減災教育に組織的に取り組む。 ・他者の心に寄り添い、互いに助け合うことの大切さを次代に伝えていく。	
	人権教育	教育を取り巻く社会情勢の変化について関心をもっている。	人権教育課題への理解を深めるように努める。	あらゆる場面で人権教育の視点を大切にした教育活動に取り組む。	人権教育を企画・運営し、計画的・組織的な取組を推進する。	地域や関係機関との連携を図り、人権教育の推進に向けた指導や助言を行う。
	国際理解・多文化共生教育		国際理解・多文化共生教育への理解を深めるよう努める。	グローバル社会の視点を大切にした国際理解・多文化共生教育に取り組む。	地域や関係機関と連携を図りながら、国際理解・多文化共生教育を組織的に推進する。	国際理解・多文化共生教育の推進に向けた指導や助言を行う。
	新たな教育課題への対応		新たな教育課題への理解に努める。	新たな教育課題についての情報収集に努め、それらの課題に積極的に取り組む。	新たな教育課題について組織的な取組を推進する。	新たな教育課題への対応について指導や助言を行う。

特別支援学校（特別支援学級・通級指導教室はこれを参考に）に関する留意事項

⑦ 特別支援学校	専門性にかかる事項	多様な障害に応じた特別支援教育の基本的な知識を身に付けている。	障害のある子供の教育課程を理解し、各教科等や自立活動の実践に努める。	学校内外の専門家等からの知見を活用して指導・支援に取り組む。	多様な障害に対応し、更なる専門性の向上に努め、学級・学年経営を推進する。	障害種別の特性に応じた指導実践を重ね、指導や助言を行う。
	センター的機能		・学部間連携に着実に取り組み、キャリア教育を体系的に推進する。 ・地域や関係機関と連携して、就労支援・進路指導に努める。	地域の学校園への助言・援助等を行う役割について理解を深める。	・特別支援教育に関する情報発信及びコーディネートに取り組む。 ・蓄積された専門的な知識・技能を生かし、指導や助言を行う。	

※1 幼稚園教諭等・養護教諭等・栄養教諭等の「①学習指導」については、別紙(校種・職種別指標)の①の内容に差し替える。

※2 養護教諭等の「②児童生徒理解・学級経営」(学級経営)については、別紙(校種・職種別指標)の「②児童生徒理解・保健室経営」(保健室経営)に差し替える。